

計画研究 A01 (課題番号: 06208205)

琉球・沖縄の対外関係史

研究代表者: 金城正篤・琉球大学・法文学部・教授

1. 研究項目: A01 琉球・沖縄の政治と社会

2. 研究課題名: 琉球・沖縄の対外関係史(課題番号: 06208205)

3. 研究期間: 平成6～9年度(1994～1997)

4. 交付研究費: 平成6年度 4,500千円
平成7年度 4,700千円
平成8年度 4,200千円
平成9年度 3,800千円 合計 17,200千円

5. 研究組織(氏名: 所属機関・部局・職)

(研究代表者) 金城正篤: 琉球大学・法文学部・教授

(研究分担者) 西里喜行: 琉球大学・教育学部・教授

(研究分担者) 上里賢一: 琉球大学・法文学部・教授

(研究分担者) 赤嶺 守: 琉球大学・法文学部・教授

6. 研究目的

本研究は重点領域研究「沖縄の歴史情報研究」における「琉球・沖縄の政治と社会」に関連する課題として、主に対外関係史に関する情報を対象として研究しようとするものである。琉球・沖縄(以下、たんに琉球という)の対外関係史を示す基本史料としては『歴代宝案』がある。『歴代宝案』は琉球王国の外交文書であって、中国(明・清)および朝鮮・東南アジア諸国との交渉の歴史を伝える同時代史料であり、時代的には1424年(明永楽22)から1867年(清同治6)までの443年間にまたがる、およそ千数十点の文書が収録されている。ただ、今次の大戦で『歴代宝案』の原本は失われたが、幸い戦前にその写本や影印本がいくつか残され、それによって『歴代宝案』の内容のかなりの部分が復元可能になっている。沖縄県では平成2年度から20年の長期計画のもとに『歴代宝案』全巻の校訂本や訳注本等の編集事業をスタートさせ、現在までに校訂本7冊を刊行している。『歴代宝案』は先記のようにカバーしている時代の長さ、収録文書の数の多さにおいて他に類を見ない琉球の対外関係史を知る根本史料であるが、すでに戦前の段階から原本の破損(虫喰いなどによる)の部分が出ていて、

一部の文書はそれ自体としては解読不能のものもあるが、同じ『歴代宝案』のなかの他の類似文書や中国側にある档案史料をつき合わせることによって、その内容をある程度復元可能なものもある。このような校訂作業を通じて、『歴代宝案』は琉球の対外関係史の研究に豊富な情報を提供しつつある。

本研究は沖縄県で進められている『歴代宝案』の編集事業の過程で収録され、また生み出された成果を活用しながら、さらに新たな関係資料の調査・発掘につとめ、それらを統一した形で情報化することによって、琉球の対外関係史の研究に寄与しようとするものである。

7. 研究実施計画

歴代宝案研究会を毎週土曜日におこない、各研究分担者が(金城正篤<9・10・11>、西里喜行<13・14・15>、上里賢一<6・7・8>、赤嶺守<1・2・3・4・5・12>)が『歴代宝案』各文書の文書番号・表題・内容・年代・文書形式等のデータベース作成を担当する。また、中国側で発掘された資料のデータベース化の基礎的作業として、北京の中国第一歴史档案馆『清代中琉関係档案選編』『清代中琉関係档案続編』の全文テキストの入力およびデータベース作成をおこない(『清代中琉関係档案選編』『清代中琉関係档案続編』は北京の中国第一歴史档案馆所蔵の琉球に関する上奏文書で、『清代中琉関係档案選編』には乾隆2年(1737年)から光緒24年(1898年)、『清代中琉関係档案続編』には乾隆2年(1737年)から光緒16年(1890年)の間に北京中央の各部院の尚書・侍郎、或いは地方の総督・巡撫・將軍・都統といった文武の高官によって皇帝に呈上された上奏文が綴られている)さらに琉球の正史の一つ『中山世譜』にも『歴代宝案』関連の記述が多いことから、併せて入力およびデータベース作成の作業をおこなう。昭和61年以後、台湾(台北)・沖縄・中国(福州・北京)等で一年おきに中琉歴史関係国際学術会議が開催され、これまでに150件以上の論文が刊行されている。本研究班ではこうした論文を中心に既刊の中琉関係に関する研究論文についても目録データベースを作成する。

8. 研究経過

平成6年度

研究目的を達成するため、初年度は研究組織のメンバーが『歴代宝案』の諸写本および影印本のリストアップを手始めに、それら諸史料の収集およびコンピュータ入力の仕事にとりかかった。また諸写本のうち、台湾大学本については、沖縄県が活字化を進めているので、完了している分については、それが利用できるよう交渉を進めた。

、研究会の実施状況

毎週土曜日に定期的に歴代宝案研究会(10時30分~12時30分)を開催し、読み下し、データベース作成等の作成等をおこなった。

沖縄3班・総括班合同研究会「<歴代宝案><琉球家譜>情報化について」日時:9月24日(土)13時~17時、場所:沖縄ホテル会議室

、データの情報化作業

『歴代宝案』のデータベースの作成

『清代中琉関係档案続編』の全文テキストおよびデータベースの作成

平成7年度

引き続き『歴代宝案』のデータベースおよび『清代中琉関係档案続編』の全文テキストおよびデー

データベースの作成をした。外字処理については数字とアルファベット文字の半角2文字で漢字1文字を処理する方法を採用した。記号置換した文字の確認は「外字・記号対照一覧表」でチェックする方式をとった。また同一字種とされる異体字の統一については歴代宝案室作成の「異体字統一表」を参考にしながら統一処理した。

、研究会の実施状況

毎週土曜日に定期的に歴代宝案研究会(10時30分~12時30分)を開催し、読み下し、データベース等の作成等をおこなった。

沖縄3班合同研究会。日時:5月20日(土)17時~19時、場所:沖縄国際大学南島文化研究所。

赤嶺守「明清档案について」

金城善「沖縄関係官報記事目録データベースの作成について」

重点領域研究「沖縄の歴史情報研究」全体会議、日時:7月23日(日)10時~17時、会場:くに荘(KKR 京都、国家公務員共済組合連合会施設)会議室

赤嶺守「<歴代宝案>とその周辺」

沖縄3研究班合同研究会、日時:12月24日(土)13時30分~17時、場所:沖縄国際大学南島文化研究所。

糸数兼次(沖縄県立博物館館長)「呈稟文集について」

、データの情報化作業

『歴代宝案』のデータベースの作成

『清代中琉関係档案続編』の全文テキストおよびデータベースの完成

平成8年度

引き続き『歴代宝案』データベースの作成、『清代中琉関係档案選編』『中山世譜』の全文テキストおよびデータベースの入力開始。

、研究会の実施状況

毎週土曜日に定期的に歴代宝案研究会(10時30分~12時30分)を開催し、読み下し、データベース等の作成等をおこなった。

第6回中琉歴史関係国際学術会議、日時:10月29日~31日、場所:北京天橋賓館

西里喜行「中琉交渉史における土通事と牙行(球商)」

上里賢一「孫衣言と琉球官生」

赤嶺守「清代中琉関係档案史料の電子情報化について」

、データの情報化作業

『歴代宝案』のデータベースの作成

『清代中琉関係档案選編』の全文テキストおよびデータベースの作成

『中山世譜』の全文テキストおよびデータベースの作成

平成9年度

引き続き『歴代宝案』のデータベースの作成、『清代中琉関係档案続編』『中山世譜』の全文テキストおよびデータベース、「中琉関係論文目録」データベースの作成。全データの全文テキストおよびデータベース完成予定。

、研究会の実施状況

毎週土曜日に定期的に歴代宝案研究会（10時30分～12時30分）を開催し、読み下し、データベース等の作成等をおこなった。

総括班・沖縄5班合同研究会（12月13日・沖縄県公文書館、14日・沖縄国際大学）

赤嶺 守「〈歴代宝案〉とその周辺史料の情報化」

、データの情報化作業

『歴代宝案』のデータベースの完成

『清代中琉関係档案選編』の全文テキストおよびデータベースの完成

『中山世譜』の全文テキストおよびデータベースの完成

「中琉関係論文目録」データベースの完成

9. 研究成果の概要

本研究における主な研究成果は論文・論著（詳細は13.01参照）と情報化資料に分けられる。情報化資料については『清代中琉関係档案選編』『清代中琉関係档案続編』『中山世譜』の全文テキスト及びデータ

ベース、『歴代宝案』『中琉関係論文目録』のデータベースを作成した（詳細は11）

10. 主要研究業績一覧

金城正篤「領封論・領封論」（『第3回琉球・中国交渉史に関するシンポジウム論文集』p.27～61、1996年）

西里喜行「ロバート・バウン号事件再考 - 東アジア国際秩序再編の一契機として -」（『琉球王国評定所文書』第11巻、p.6～86、浦添市教育委員会、1995年3月）

西里喜行「毛鳳来（富川盛奎）の清国亡命事件とその周辺 - 新たな救国請願書の紹介を兼ねて -」（『第五屆中琉歴史関係学術会議論文集』p.302～353、福建教育社、1996年7月）

上里賢一「琉球官生の漢詩」（『第3回琉球・中国交渉史に関するシンポジウム論文集』p.151～191、1995年）

上里賢一「琉球官生毛世輝の漢詩について」（『第五屆中琉歴史関係学術会議論文集』p.218～248、福建教育社、1996年7月）

赤嶺守「清朝の対日琉球帰属問題と脱清人」（『清代中国の諸問題』p.263～295、山川出版社、1995年）

赤嶺守「『歴代宝案』編集事業及其意義」（『第五屆中琉歴史関係学術会議論文集』p.64～94、福建教育社、1996年7月）

11. 情報化資料の概要

本研究班では以下の全文テキストおよびデータベースを作成した。

- | | |
|--------|----------------|
| 全文テキスト | 1、『清代中琉関係档案選編』 |
| | 2、『清代中琉関係档案続編』 |
| | 3、『中山世譜』 |

データベース

- 1、『歴代宝案』
- 2、『清代中琉関係档案選編』
- 3、『清代中琉関係档案統編』
- 4、『中山世譜』
- 5、『中琉関係論文目録』

『清代中琉関係档案選編』『清代中琉関係档案統編』『中山世譜』の全文テキストの作成にあたって、外字処理は文中に半角で<1A>といったように各文字に記号をつけて入力する方法をとった。半角2文字で漢字1文字を処理する方法を採用したのは、文字化けのないオンライン化による情報交換を可能にするためであるが、全文テキストの抬頭のある文書特有の書式を変えずに入力する工夫でもある。記号置換した文字の確認は「外字・記号対照一覧表」および「外字・記号対照部首索引一覧表」でチェックする方式をとった。また漢文文書には一つの字種に対して、異体字が多く用いられており、異体字が多いとコンピュータは検索洩れを起こしてしまい、必要な情報が得られなくなってしまうことがある。同一字種とされる異体字の統一については歴代宝案室作成の「異体字統一表」を参考にしながら、以下の原則で異体字を統一処理した。

- (1) 異体字(俗字・別体字等)は原則的に<JISコード>にある旧字の正字に統一する。
- (2) 旧字の正字が<JISコード>にない場合は<JISコード>にある常用漢字で統一する。
- (3) 外字で<JISコード>に正字がない場合は外字の<統一字>を作成する。

『歴代宝案』のデータベースに関しては各文書に文書番号を付し、年代、文書形式、発信者、受信者、写本・影印本の現存状況などの歴史情報として利用しやすいような電子情報化資料を作成した。

『清代中琉関係档案選編』(863件)『清代中琉関係档案統編』(289件)のデータベース作成にあたっては、「文書番号」「中国暦」「西暦」「類別」「題文者」「内容」「琉球国王」「貼黄」「残欠・欠字・字不明」等の項目を設定し、その中の類別は「進貢」「接貢」「謝恩」「請封」「冊封」「接封」「慶賀」「進香」「報喪」「官生」「飄風難民」等に分類した。『中山世譜』は首里王府編纂の王家の家譜で正巻5巻からなる琉球の正史の一つであるが、データベースでは国王・王妃・王子等の項目を設定した。「中琉関係論文目録」はこれまで日本・中国・台湾で発表された中琉関係に関する学術論文のデータベースで、分野は歴史に限定せず文学、考古学、人類学、民族学、音楽、服飾等、多岐にわたっている。以上、『清代中琉関係档案選編』『清代中琉関係档案統編』『中山世譜』『中琉関係論文目録』のデータベースは、全て「桐 Ver.5」(管理工学研究所)で作成した。